

【第3回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

平成27年9月10日

【日時】 平成27年8月10日（月）15:00～17:00

【場所】 石狩市役所3階 庁議室

【出席者】 11名（15名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	酒井 志津子	○	委員	武部 正芳	×
副会長	竹口 尊	○	委員	坂下 和広	×	委員	徳光 康宏	○
委員	木村 秀裕	○	委員	佐藤 勝彦	○	委員	林 美香子	○
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	○	委員	原 俊彦	×
委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	×	委員	松崎 英樹	○

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域政策部：川島地域政策部長、高村地域政策課主査

□事務局 石狩市企画経済部：加藤企画経済部長、佐々木企画課プロジェクト担当課長、
池内企画担当主査、青木企画担当主任

【傍聴者】 0名

- 【次第】 1. 開会
2. 総合戦略について
・原案について
3. 閉会

==== 会議内容の記録 =====

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

1. 開会
2. 総合戦略について

- 原案について事務局より説明【資料1】

意見交換

■「第1 基本的な考え方」について

○4ページ（7）に記載されている「地域経済分析システム（RESAS）によるビックデータの活用」については、実際にどのようにしていこうと考えているのか。

●地域経済分析システム（RESAS）の構成としては、過去の人口データや企業の情報などがあり、一般には公開されていない情報もあるが、当市の場合は、港湾・企業支援課においても情報を取り扱うことを可能としており、地域経済分析システム（RESAS）を活用して、例えば13ページ「（5）石狩湾新港地域における新規商流拠点の形成」などに繋げていければと考えている。ただ現段階では、地域経済分析システム（RESAS）を活用した具体的なプロジェクトを立てるまでは至っていないというのが実情である。

○ビックデータの活用は市町村にとっては大変なことだと思うが、石狩湾新港という特色があるので期待できると思う。実際には、総合戦略策定後のフォローアップが重要になると思う。

○地方創生のコンシェルジュについては、今後積極的に活用していく予定があるのか。

●コンシェルジュは、東京霞ヶ関にしながら地域の地方創生のプロジェクトのサポーター的な役割をする方であり、北海道全体で約 60 名の方がコンシェルジュに任命されている。その中に石狩を担当されている方が 1 名おり、何かあればその方に相談したいと思っているが、現時点では、具体的な案件を相談するような状況ではない。

○是非積極的に活用してもらいたい。

■「第 2 戦略目標と具体的な施策」について

戦略目標 2 「子育て力」をさらに発揮する

(1) 若い世代の出会いを通じた地域活力の醸成

○前回の懇話会で、1 次産業に限らず全産業を対象とした施策にしてはどうかという意見があり、今回具体的な施策の文章の後段に記載しているが、わかりにくいため、もう少し工夫して全産業を対象にした文章にした方が良くと思う。

○J A では、農家人口を増やしていかなければいけないと考えており、取り組もうとはしているが、現場レベルでは増えることに対してメリットを感じ辛いところもある。新たに地域を担っていく人材を入れることで、より魅力が広がったり、自分たちが気付いていない魅力に気付くようになると思う。

○若い女性が農家に就いてもらう工夫をしなければならないと思う。

戦略目標 3 「地域資源」からモノやしごとを創る

(1) 地域資源を活用した新産業の創出

○新規就農者は付加価値の高い生産物を作り既存農家はブランド力を磨くなど、新規就農者と既存農家に対する施策を分けて検討していくべきではないか。

○漢方とは別に、薬物野菜でとにかく頑張るとか新顔野菜で頑張っていくとか、新規就農者の人と新産業を絡ませて展開していく可能性はあると思う。

○果樹園についても、すごく頑張っているところも多いので、少し書き加えた方が良く。

○札幌に近く、札幌の労働力を使えるということは石狩の大きな特色であり、あらためて石狩の農業の素晴らしさを書き込んだほうが良いと思う。

(2) 「石狩ブランド」の推進

○石狩ブランドの中心に農畜産物が見えてこない。魚のことは具体的に書いてあるのだが、農業は少し伝わりにくい書き方になっている。石狩の一つの産業の柱としての農業について、今後の姿が見えるような書き方にしては如何か。

●農業の部分の記載が弱いため、調整したいと思う。

○第 1 回懇話会でも話しが出たが、石狩を代表するイベントとして、「ライジングサンロックフェスティバ

ル」があるが、具体的なイベント名を明記できなくても、「音楽イベントとの連携」などの記載ができないか。

- 現実的にはウエスと教育委員会の連携は徐々には進んでおり、今年はオープニングで花川南中学校とアーティストがジョイントをすることとなっており、そういう連携は徐々に芽吹いてはいるが、持ち帰り検討する。

(5) 石狩湾新港地域における新規商流拠点の形成

- 防災機能を付加すると書いてあるが、新港地域で災害があったときの避難経路はあるのか。
- 防災計画の地区計画は定まっている。地区計画作りに当たっては、新港の団地連絡協議会が集まって話し合いまとめた経緯がある。合わせて石狩湾新港はバックアップ拠点港に位置付けられており、また石狩開発が中心となって、官民合わせて防災備蓄の関係を議論している最中である。
- 「石狩湾新港地域における新規商流拠点の形成」と記載がある部分で、物流にこだわっているように思うが、新港には色々な業種があるので、もっと総合的に記載することができないかと思う。
- 石狩湾新港が持つ備蓄機能は、かなりの売りになるかもしれないため、少し工夫して記載すると良いと思う。

戦略目標 4 「いろんな顔」をつくる

(3) 中山間・過疎地域における多機能・複合型交流拠点の形成

- 道の駅で重要なことは農家を育てることである。既存農家の作物をそのまま道の駅で売るとは難しいため、良い物を厳選し少し高くても売れるということを勉強してもらう。その次は競争であり、何年間か先を見通し、育てていく仕掛けやシステムを内蔵させていかないと、最初からお祭り騒ぎでは成功しないと思っている。
- 前回の懇話会で、福島県の道の駅たまかわの取組みを紹介したが、都会のレストランなどとやり取りをしながら勉強し、ニーズに合った作物を育てていくということが、結果的には石狩プライドに繋がっていくと思う。
- 伊達の観光協会は、PRの仕方が上手い。上手にPRすることで、行ってみたい、食べてみたいという“憧れ”を抱かせることが、結果的には作る人、住む人の誇りにつながっている。ロコミで人は集まってくる。PRの方法を検討するプロジェクトチームを、観光協会を含めて作るべきではないか。
- 魅せて作る、買ってもらう、そしてまた人を呼び込むという仕組みを作るには、プロフェッショナルな人たちの力を借りないと上手くいかないと思うため、そこに予算をつけ、どの様にプロジェクト化していくかということを徹底して検討しなければ、いつまで経っても変わらないと思う。完成度の高い魅力的な商品をしっかり作り上げ売らなければ他に負けてしまう。プロフェッショナルな人が非常に重要だと思う。
- 厚田ではセニョリータという肉厚で美味しいパプリカを作っているが単価が高い。この価値を認めてもらうには、魅せ方や売り込み方が重要であり、農家と消費者を繋ぐ人が必要だと思う。そういうことの巧みなコーディネーターを見つけようとしている。
- そういう人を道の駅の駅長にすると良い。公募したら良いのではないか。石狩に定住してやってみようという人も出てくるかもしれない。

○アドバイザーについても書き加えることを検討してほしい。

（４）農山漁村交流を軸とする地域の魅力発信

- 農業の魅力は体験しないと伝わらない。子どものうちに様々な体験を通して、作物がどのように成長し、自分の口に入るのかという流れを覚えた人は、農業に魅力を感じると思う。
- 消費者を育てるようなシステムができると良い。
- 農村地域等におけるオーガニック野菜の栽培体験は、小中学生などの次世代の子ども達に農山漁村体験プログラムを提供し、次の時代の農漁業に繋げていければ良いということを記載している。

戦略目標 5 誇りとなる「人や文化」を育てる

- 「2 基本的な方向」の中で、「国際的感覚豊かな人材を育てる」とあるが、具体的な施策「国際的」という言葉が出てきていないため、どこかに「国際的」という言葉を入れた方が良い。
- 言い回しを工夫し、関連性を持つよう見直していきたい。

（１）学びの機会と輪を広げる取組みの推進

- KPI として「ボランティア学生数 10 人」とあるが、少ないと思う。ボランティアは小中学生でもできると思うため、教育現場の人と話し、学校をあげてボランティア事業に取り組むなど、色々な方法でできるのではないかなと思う。
- 大学生が放課後学習のサポートをするという活動であり、現在 1～2 名のボランティアだったと思う。この活動の輪を広げたいということで 10 名に設定したと考えるが、持ち帰り確認する。

（２）ゴールデンエイジの重点支援によるアスリートの育成

- 22 ページの「遊休公共財産の有効活用の検討」にも関連すると思うが、スポーツに力を入れるのであれば、子ども達や学生が宿泊できる施設があれば、石狩へ練習に来ると思う。
- ソフトボールやサッカーなど盛んに活動がされているが、宿泊施設が無いので他の自治体に人が流れているということがあるため、検討させていただきたい。
- 学校が統合した場合に、廃校となる校舎を宿泊施設にするのはどうか。練習場はあるが宿泊施設がないため人を呼び込めないことが一番困っていることだと思う。
- 公共施設等総合管理計画などで計画的に管理されていると思うが、幅広い世代の色々な意見を吸い上げながら検討していただきたいと思う。

（３）幅広い人材登用による地域活力の創出

- 農業に限らずあらゆる産業において、後継者が U ターンで戻ってくる場合に、補助金を出すなどの制度はあるのか。
- 地方創生先行型の財源を活用して、新規就農者へ設備費用として助成金を出すという施策を行い、1、2 件活用されている。農業に関しては、青年就農交付金という既存の仕組みはあるが、農業に限った話ではなく幅広い産業となると、財源的な部分で難しいと思う
- 農業に限らず商工業にも長く商売を行っている人がいるため、後継者の方を呼び、新しいアイデアが必要だと思う。
- 厚田区地域協議会では、農業の後継者を育てるため、地域おこし協力隊制度の活用を検討している。国

の助成金を活用し、農家の人が農業をやりたいという人を育てていく。また、集落支援員についても、地域おこし協力隊とセットでやってみようと思っている。

（４）自然とのふれあいを通じたふるさと意識の醸成

- KPI として「植樹延参加者数」のみ書かれているが、植樹だけではなく自然を守っていくことや観察するなど、もう少し植樹以外の視点を入れてはどうかと思う。
- 所管課ともう少し工夫した KPI を検討する。

（５）鮭の歴史文化の醸成による観光産業の活性化

- KPI として「さけまつり入込数」のみというのが残念である。鮭文化の関係で、例えば小中学校で鮭の勉強をするなど、そんなにお金をかけずに広める方法もあるのではないかな。
- 鮭の勉強会の回数や参加者数、ディスカッション開催回数などの方が良いと思う。
- KPI としては入込数という数量設定になるかと思うが、具体的な事業をもう少し詳しく記載することにより、見た方に鮭の歴史文化醸成事業についてのイメージが伝わるような工夫をしたい。
- 現実的に小学生の鮭の勉強会は学校で行っているのだから、鮭文化を学ぶ学生の数など次回までに工夫したいと思う。

（６）移住・定住の推進

- 具体的な事業と KPI に「ワンストップサービス」と出ているが、伊達市が非常に上手にワンストップサービスを行っており、石狩市も是非良いワンストップサービスを始めていただきたい。
- 新規就農者は住むところを探すのに苦労しており、新規就農の相談を受けたときに、住むところを紹介できるかできないかでは大きく違う。市が住まいを用意できれば新規就農に繋がっていくと思う。
- 21 ページの「空き家活用促進事業」と連携していると思うため、そのことを書いたほうが良いのではないかな。
- 事業の再掲を整理する際に見直しする。

戦略目標 6 時代にあった地域として持続する

（２）民間ストックの活用促進による地域活性化

- 空き家活用促進事業は先行で実施しているということだが、具体的にどのように進んでいるのか。
- 市内の空き家を活用し、例えば住み替えや、コミュニティビジネスなどの起業に活用するという場合に 25 万円を助成する。さらに、そのためのリフォームやリノベーションをする場合、市内業者を使うとプラス 25 万円の助成、最大で合計 50 万円助成するというもの。予算上は、最大 10 件の枠で、現在は 6 件の実績があり、いずれも市内業者を活用しているので、合計で 300 万円の助成を行っている。間違いなく 1 年間で 10 件は達成する。交付金の先行型の財源を使い試みた事業なので、是非継続していければ良いと思う。

（６）遊休公有財産の有効活用の検討

- この KPI のみ「1 件“以上”」という表記となっており他と違う。
- 「以上」ではない形で設定したいと思う。あわせて 13 ページの「新しい雇用の創出、若者の職場定着支

援」も同様の記載のため整理する。

■「第3 人口ビジョン」「第4 各種基礎調査の結果（参考資料）について

○この資料は「第3 人口ビジョン」もそのまま総合戦略の資料として掲載されるのか。

●この位置付けで合冊したいと考えている。戦略の部分、人口ビジョン、各種アンケート調査の結果を1冊にまとめて、市民の皆さんに提示し、随時毎年の見直しでブラッシュアップしていき、一方でKPIの検証を進めていくと考えている。

■その他（全体を通して）

●人口減少問題に関して、他の自治体から人口を持ってくるとった都市間競争はせず、税金や医療費に関する施策は、自治体がそれぞれバラバラに実施するのではなく、国が施策としてやるものではないかと考えておりますが、色々なご意見があると思うので本懇話会委員の皆さんの意見をお伺いしたい。

○他の都市と差別化し、そのまちに住むメリットがなければ問題解決はできないと思う。石狩の住みやすさや自然などのメリットが色々あれば良いが、交通が不便、雪が多いなどデメリットのイメージが強いいため、目玉的な何か他とは違うメリットがないと難しいと思う。

○郷土への誇りや石狩プライドを求めていくことを考えると、国全体が同じ様なまちだと石狩への愛着はどこから生まれてくるのか。まちの個性であると思う。石狩は子育てがしやすい環境ということで、お金があまりかからないということが個性だとしたら石狩に住んでいることがプライドになってくと思う。どこも同じ行政サービスが行われるのではなく、それぞれのまちの個性としてのサービスがあっても良いのではないかなと思う。そう考えると都市間競争という捉え方をする必要はないのではないかなと思う。

○子育て資金を出すなどの都市間競争は違うと思う。ただ子育てをしやすいまちという中に、子育てサロンや保育所が充実しているということはとても重要であると思う。北海道新聞の記事の中に、ゴスペルの活動をしている石狩在住の女性が出ていて、転勤で来た方がそのような活動をして情報発信ができることは、石狩のすごいところだと思った。税金優遇などの都市間競争ではなく、そのような活動が出来る地域ということをもっと情報発信したほうが良いと思う。

○全員にお金を渡すのではなく、例えば就農する人たちに対する支援を手厚くすることで若い世代が移ってくるのであれば、知恵のある施策だと思う。そういうことで全国の新規就農をしたいと考えている人が石狩に来るのであれば、その結果として子どもの数が増え、若手の人も増えるのならば素晴らしい施策だと思う。あるいは地域でビジネスを起こす人が石狩に行くと何かやれると思ってもらえるまちならそれはすごくインセンティブになると思う。

○自分は30年以上石狩で生活しているが、こんなに良いところは無いと思っている。都会とは違う人の繋がりが有り、故郷という感じがして、本当に石狩が大好きである。情報発信する若者も増えており、市や商工会議所など色々なところがバックアップをしているので、これから先30年後の計画は素晴らしいと思っている。

○都会は「お金で便利さを買っているところ」で、田舎は「不便だが豊かさを買うところ」だと思う。価値観の問題であるので、お金をばら撒いて人を呼ぶことは本末転倒だと思う。人々が喜んで土地や風土を愛していれば、日本全体から選択する人が出てくると思うため、協働で市民と一緒にやっていけば必ず良くなる。

3. 閉会

平成 27 年 9 月 10 日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治